

## ジゴキシン散

### Digoxin Powder

**溶出試験** 本品の表示量に従いジゴキシン( $C_{41}H_{64}O_{14}$ )約 1mg に対応する量を精密に量り、試験液に水 900mL を用い、溶出試験法第 2 法により、毎分 50 回転で試験を行う。溶出試験を開始し、規定時間後、溶出液 20mL 以上をとり、孔径 0.45 $\mu$ m 以下のメンブランフィルターでろ過する。初めのろ液 10mL を除き、次のろ液を試料溶液とする。別にジゴキシン標準品を 105 で 1 時間減圧乾燥し、その約 0.022g を精密に量り、温エタノール(95)50mL に溶かした後、冷後、エタノール(95)を加えて正確に 100mL とする。この液 5mL を正確に量り、水 5mL 及び希エタノールを加えて正確に 50mL とする。更にこの液 5 mL を正確に量り、水を加えて正確に 100mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 100 $\mu$ L ずつを正確にとり、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行い、それぞれの液のジゴキシンのピーク面積  $A_T$  及び  $A_S$  を測定する。

本品が溶出規格を満たすときは適合とする。

ジゴキシン( $C_{41}H_{64}O_{14}$ )の表示量に対する溶出率(%)

$$= \frac{W_S}{W_T} \times \frac{A_T}{A_S} \times \frac{1}{C} \times \frac{9}{2}$$

$W_S$  : ジゴキシン標準品の量(mg)

$W_T$  : ジゴキシン散の秤取量(g)

$C$  : 1g 中のジゴキシン( $C_{41}H_{64}O_{14}$ )の表示量(mg)

#### 試験条件

検出器：紫外吸光光度計(測定波長：220nm)

カラム：内径 4mm，長さ 15cm のステンレス管に 5 $\mu$ m の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：30 付近の一定温度

移動相：水/アセトニトリル混液(7:3)

流量：ジゴキシンの保持時間が約 10 分になるように調整する。

#### システム適合性

システムの性能：標準溶液 100 $\mu$ L につき、上記の条件で操作するとき、ジゴキシンのピークの理論段数及びシンメトリー係数はそれぞれ 2500 段以上、2.0 以下である。

システムの再現性：標準溶液 100 $\mu$ L につき、上記の条件で試験を 6 回繰り返すとき、ジゴキシンのピーク面積の相対標準偏差は 1.5% 以下である。

#### 溶出規格

表示量	規定時間	溶出率
1mg/g	30 分	75% 以上